

非稼働病棟の現状について
(令和5年県独自調査結果)

医療圏	医療機関名	病棟名	病床数	非稼働開始時期	予定	再開時の機能	具体的な時期	非稼働理由	解消に向けた取組
尾張西部	総合大雄会病院	中5階	8床	2018年1月	再開予定	急性期	2025年4月	透析治療を担う複数名の腎臓内科医師の採用が計画通りに進まず当初計画が遅れていた。	透析治療は腎臓内科医の募集を行うと同時に、泌尿器科医や非常勤腎臓内科医で診療にあたることとし、計画を進めている。一部病棟の改装が必要で、具体的な図面の作成や工事費の見積りに入った。再稼働予定を2025年4月とし、2023年2月開催の尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会において2025プランの修正とともに承認されている。
		北3階	20床	2021年9月	再開予定	急性期	2023年12月	新型コロナウイルス感染症に係る確保病床を運用するために人員確保が必要となった。当該病棟からコロナ確保病床に人員の配置転換を行ったことにより非稼働病床となった。	人員確保の目処が付き、2023年12月に再稼働予定である。 (※12月1日から稼働済み)
	稲沢市民病院	3階北病棟	32床	2019年10月	再開予定	急性期	2025年	新型コロナウイルス感染症の長期化により、コロナ専用病棟(5階南病棟)や他病棟の陰圧室での対応のため職員が分散されたことにより、一時的に休床としているもの。	新型コロナウイルス感染症終息後の開床に向け、努めていく。

調査時点/令和5年9月14日調査日
令和5年10月6日回答期限